

交付運用報告書

DIAMケイマン・トラストー Aspect マネージド・ フューチャーズ・ファンド

ケイマン諸島籍／オープン・エンド契約型／
外国株式投資信託

米ドルクラス／豪ドルクラス／円クラス

作成対象期間：第13期(2023年12月1日～2024年11月30日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、DIAMケイマン・トラスト(以下「トラスト」といいます。)のシリーズ・トラストであるDIAMケイマン・トラストーAspect マネージド・フューチャーズ・ファンド(以下「ファンド」といいます。なお、ファンドの名称について、「DIAMケイマン・トラストー」を省略することがあります。)は、このたび、第13期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、厳密なリスク管理体制内で、従来の株式債券市場の全般的な変動に左右されずに、中期的な信託財産の成長を図ることです。副投資顧問会社が、システム化され幅広く分散されたグローバルな投資プロセスを採用し、主に派生商品の活用を通じ、多様な金融商品やその他資産(株式、株価指数、債務証券(債券を含みます。)、通貨、金利および商品(エネルギー、金属および農産品を含みます。))を含みますが、これに限定しません。)の市場のトレンドを伴う動きを見極め、有効に活用すべく、多様な投資戦略を展開します。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

米ドルクラス

1口当たり 純資産価格	純資産価額	騰落率	1口当たり 分配金額
第13期末		第13期	
12.04米ドル	27,233千米ドル	-4.7%	0.00米ドル

豪ドルクラス

1口当たり 純資産価格	純資産価額	騰落率	1口当たり 分配金額
第13期末		第13期	
9.46豪ドル	859千豪ドル	-5.7%	0.00豪ドル

円クラス

1口当たり 純資産価格	純資産価額	騰落率	1口当たり 分配金額
第13期末		第13期	
9,707円	4,801,035千円	-9.2%	0円

(注1) 騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみなして計算しています。なお、米ドルクラスおよび円クラスについては、分配実績はありません。豪ドルクラスについては、当期における分配実績はありません。以下同じです。

(注2) 1口当たり分配金額は、税引前の分配金額の期中合計額を記載しています。以下同じです。

*ファンドは、ケイマン諸島の法律に基づいて設立されていますが、受益証券は、クラス建通貨である米ドル、豪ドルまたは日本円建てのため、本書の金額表示は別段の記載がない限り、米ドル、豪ドルまたは日本円をもって行います。

*本書の中で金額および比率を表示する場合、適宜の単位に四捨五入している場合があります。したがって、合計の数字が一致しない場合があります。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、日本における販売会社までお問い合わせください。

その他記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト(<https://www.sc.mufg.jp/products/trust/index.html>「外国投資信託運用報告書」)にて電磁的方法により提供しております。

管理会社

クイーンズゲート

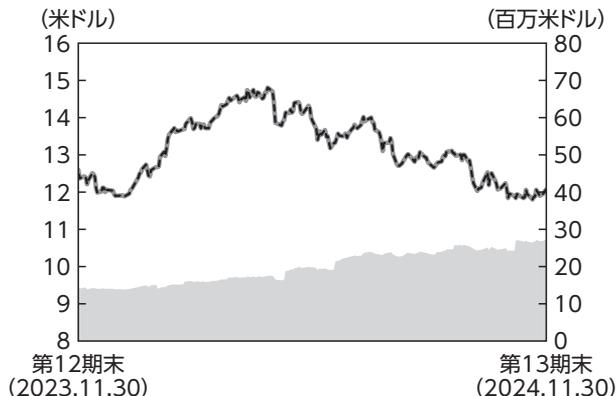
代行協会員

三菱UFJモルガン・スタンレー証券
株式会社

運用経過

当期の1口当たり純資産価格等の推移について

米ドルクラス



第12期末の1口当たり純資産価格：12.63米ドル

第13期末の1口当たり純資産価格：12.04米ドル

第13期中の1口当たり分配金額：0米ドル

騰落率：-4.7%
(分配金再投資ベース)

■ 純資産価額 (右軸) — 1口当たり純資産価格 (左軸)
 --- 分配金再投資1口当たり純資産価格 (左軸)

(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、米ドルクラスについては、分配実績はありません。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第12期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しております。

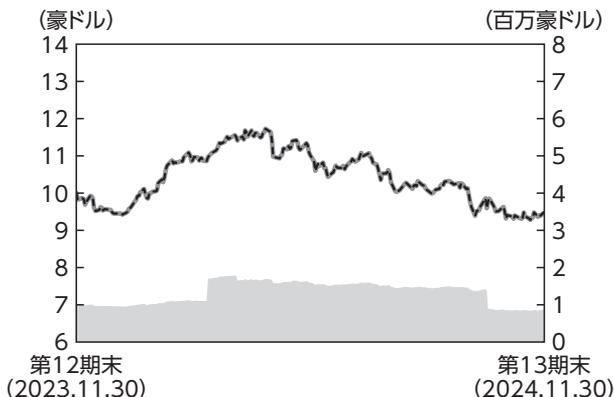
(注3) ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) ファンドにベンチマークは設定されていません。

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

期間中、ファンドは農産物市場の特にカカオ市場におけるロングポジションが1口当たり純資産価格の変動におけるプラス要因となった一方、債券市場におけるロングポジション、金属市場におけるロングショートの変動ポジションなどがマイナス要因となりました。

豪ドルクラス



第12期末の1口当たり純資産価格：10.03豪ドル

第13期末の1口当たり純資産価格：9.46豪ドル

第13期中の1口当たり分配金額：0豪ドル

騰落率：-5.7%
(分配金再投資ベース)

■ 純資産価額(右軸) — 1口当たり純資産価格(左軸)
--- 分配金再投資1口当たり純資産価格(左軸)

(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、豪ドルクラスについては、分配実績はありません。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第12期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しております。

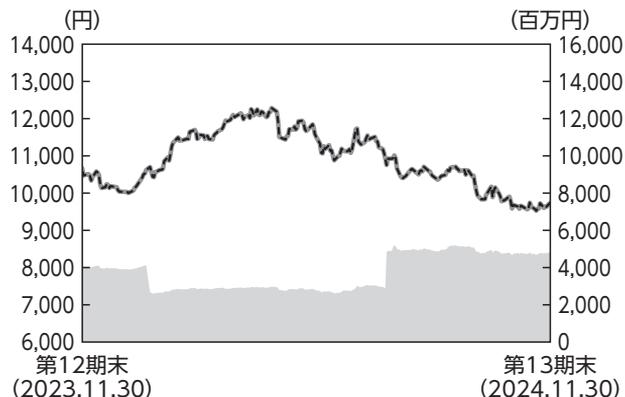
(注3) ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) ファンドにベンチマークは設定されていません。

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

期間中、ファンドは農産物市場の特にカカオ市場におけるロングポジションが1口当たり純資産価格の変動におけるプラス要因となった一方、債券市場におけるロングポジション、金属市場におけるロングショートの変動ポジションなどがマイナス要因となりました。

円クラス



第12期末の1口当たり純資産価格：10,691円

第13期末の1口当たり純資産価格：9,707円

第13期中の1口当たり分配金額：0円

騰落率：-9.2%
(分配金再投資ベース)

■ 純資産価額 (右軸) — 1口当たり純資産価格 (左軸)
 --- 分配金再投資1口当たり純資産価格 (左軸)

(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、円クラスについては、分配実績はありません。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第12期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しております。

(注3) ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) ファンドにベンチマークは設定されていません。

■1口当たり純資産価格の主な変動要因

期間中、ファンドは農産物市場の特にカカオ市場におけるロングポジションが1口当たり純資産価格の変動におけるプラス要因となった一方、債券市場におけるロングポジション、金属市場におけるロングショートの変動ポジションなどがマイナス要因となりました。

費用の明細

項目	年率/金額	項目の概要
受託報酬	純資産価額の年率0.01%(ただし、四半期当たり3,750米ドルを最低額とします。)	ファンドに対して提供する、ファンドの資産の受託業務についての対価
管理報酬	純資産価額の年率0.01%(ただし、四半期当たり3,750米ドルを最低額とします。)	ファンドに対して提供する、ファンドの資産の運用、管理およびファンドの受益証券の発行、買戻し業務等についての対価
管理事務代行報酬	純資産価額に応じて以下の料率を乗じて得た額(ただし、年間89,000米ドルを最低額とします。)	
	純資産価額	管理事務代行報酬料率(年率)
	250百万米ドル未満の部分	0.08%
	250百万米ドル以上 500百万米ドル未満の部分	0.06%
	500百万米ドル以上の部分	0.04%
		ファンドに対して提供する、ファンドの報酬および費用の算出、純資産価額の算出および発表、受益証券の申込みおよび買戻請求の処理、ファンドの主たる記録の維持、ファンドの報酬費用の支払いその他の管理事務代行業務および登録・名義書換事務代行業務についての対価
保管報酬	純資産価額の年率0.02%または受託銀行と保管銀行が随時合意するその他の報酬	ファンドに対して提供する、保管する証券の処理、評価および報告等の保管業務についての対価
投資顧問報酬	純資産価額の年率0.63%	ファンドに対して提供する、ファンドの資産の投資および運用に関する業務についての対価
副投資顧問報酬	基本報酬: 共通ポートフォリオ ^(※1) の純資産価額の年率1.5% 成功報酬: さらに共通ポートフォリオの成功報酬控除前評価額が、その時点のハイウォーターマーク ^(※2) を超えた場合、その超過分の20% (※1) 共通ポートフォリオとは、ファンドの資産から為替管理会社が実行する為替取引の未実現損益を除いたポートフォリオをいいます。 (※2) ハイウォーターマークとは、過去の共通ポートフォリオの成功報酬控除後の評価額の最高値(設定当初は発行価額)をいいます。	ファンドに対して提供する、ファンドの資産の投資および再投資に関する副投資運用業務についての対価
販売報酬	純資産価額の年率0.95%	ファンドに対して提供する、日本における受益証券の販売・買戻しの取扱業務等の販売会社としての業務についての対価
代行協会員報酬	純資産価額の年率0.05%	ファンドに対して提供する、受益証券一口当たり純資産価格の公表、運用報告書(全体版)のホームページにおける提供、および交付運用報告書その他の書類の日本における販売会社への配布等の代行協会員としての業務についての対価
その他の費用(当期)	ファンドの純資産価額の0.55%	コミッション支払代行報酬、専門家報酬、登録・名義書換事務代行報酬、印刷費用、維持費用、登録費用等

(注1) 各報酬については、目論見書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用・手数料の金額をファンドの当期末の純資産価額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2) クラス分けされたものがないため、シリーズ・トラスト(ファンド)単位で掲載しています。ファンドは複数のクラスで構成されています。

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について

米ドルクラス



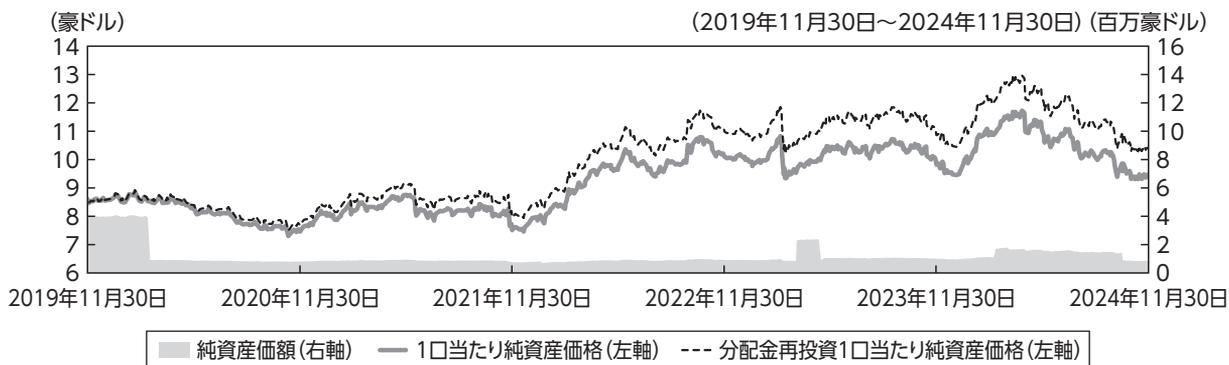
(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、米ドルクラスについては、分配実績はありません。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第8期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

	第8期末 (2019年11月30日)	第9期末 (2020年11月30日)	第10期末 (2021年11月30日)	第11期末 (2022年11月30日)	第12期末 (2023年11月30日)	第13期末 (2024年11月30日)
1口当たり純資産価格 (米ドル)	9.66	8.62	9.03	12.50	12.63	12.04
1口当たり分配金期中合計額 (米ドル)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資1口当たり純資産価格の騰落率 (%)	—	-10.8	4.8	38.4	1.0	-4.7
純資産価額 (千米ドル)	9,906	7,324	3,491	9,065	14,377	27,233

(注) ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されていません。

豪ドルクラス



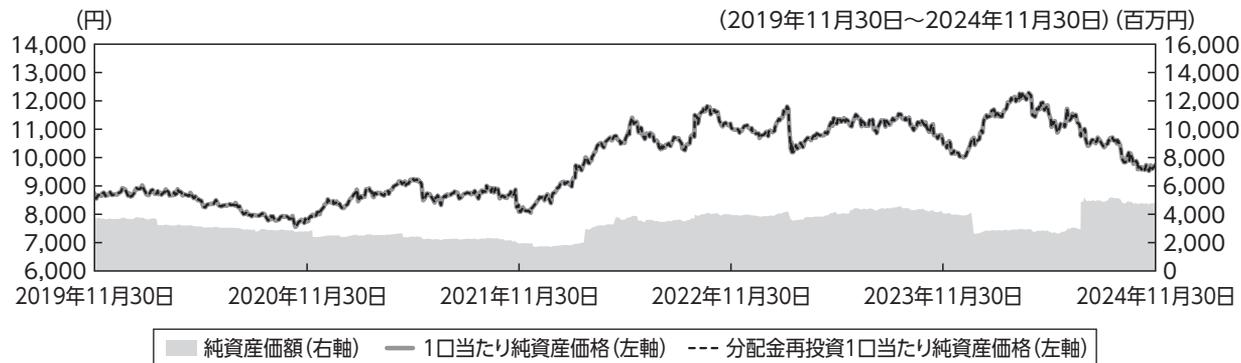
(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第8期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

	第8期末 (2019年11月30日)	第9期末 (2020年11月30日)	第10期末 (2021年11月30日)	第11期末 (2022年11月30日)	第12期末 (2023年11月30日)	第13期末 (2024年11月30日)
1口当たり純資産価格 (豪ドル)	8.67	7.46	7.52	10.18	10.03	9.46
1口当たり分配金期中合計額 (豪ドル)	-	0.24	0.24	0.24	0.16	0
分配金再投資1口当たり純資産価格の騰落率 (%)	-	-11.4	3.6	39.1	0.1	-5.7
純資産価額 (千豪ドル)	4,028	795	741	924	1,014	859

(注) ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されておりません。

円クラス



(注1) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。なお、円クラスについては、分配実績はありません。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、第8期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

	第8期末 (2019年11月30日)	第9期末 (2020年11月30日)	第10期末 (2021年11月30日)	第11期末 (2022年11月30日)	第12期末 (2023年11月30日)	第13期末 (2024年11月30日)
1口当たり純資産価格 (円)	8,807	7,745	8,088	11,129	10,691	9,707
1口当たり分配金期中合計額 (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資1口当たり純資産価格の騰落率 (%)	—	-12.1	4.4	37.6	-3.9	-9.2
純資産価額 (千円)	3,445,332	2,778,776	1,936,174	3,979,550	4,134,322	4,801,035

(注) ファンドにベンチマークおよび参考指数は設定されておりません。

投資環境について

2023年12月、FRB(米連邦準備制度理事会)は金利がピークに近い水準にある可能性が高いことを認め、利上げが終焉に近づいている可能性を示す最も強いシグナルを市場に送りました。このハト派的なアプローチはFOMC(米連邦公開市場委員会)でも見られ、ドットプロットの修正予想では2024年に3回の利下げが示唆されました。これらの基調変化は、FRBが過去22年間で最高水準の金利を維持することを決定したことに伴うもので、世界的な株価指数の上昇を呼び起こしました。

2024年に入ると、中央銀行の金融政策期待が引き続き市場を支配しました。FRBによる第1四半期の政策金利引き下げに対する期待は、複数のデータが米国経済の好調を示唆し、インフレ率が予想を上回ったことから低下していました。しかし、第1四半期が進むにつれ、FRBは金利の据え置きを継続した一方で、FRB当局者のレトリックはハト派的な傾向を強めていきました。スイス国立銀行は、パンデミック後に利下げを実施した最初の主要中央銀行となり、第1四半期最終月となる3月に25bpsのサプライズ利下げを実施しました。将来の利下げ観測に加え、米国経済の底堅さやAI関連銘柄への熱狂がリスク心理を刺激し、主要株価指数は史上最高値を更新しました。多くの期待が寄せられた後、日本銀行は歴史的な金融政策の転換として2007年以来の利上げを実施しました。第1四半期には日本株が急騰する一方、日本円は対米ドルで数十年ぶりの安値まで急落しました。

第2四半期に入り、米国のインフレ率が予想を上回ったことを受け、FRBの利下げ期待は後退しました。その結果、6か月間にわたり上昇を続けていた世界株価指数の上昇は失速し、債券市場も売られました。日本円は対米ドルで数十年ぶりの安値を更新し、日本銀行が為替介入に踏み切った可能性があるとの憶測が広がりました。商品市場全体では、中東の地政学的不透明感もあり、エネルギー市場は不安定な動きとなりましたが、需要サイドの力強い要因が金属を押し上げました。米国の経済データが相反するものであったため、成長率、インフレ率、金利の見通しが曖昧となり、世界的なインフレ懸念テーマが引き続き市場を牽引しました。フランスでの解散総選挙を含む欧州の政治情勢は、市場にさらなる不透明感をもたらしました。しかし、こうした出来事も米国株の上昇を妨げるには至らず、大型テクノロジー企業の株価上昇に支えられ、主要ベンチマークは第2四半期末にかけて史上最高値を更新しました。

第3四半期はボラティリティの高騰が散見されました。最も顕著な乱高下は8月初旬でした。これは、米国が間もなく景気後退に入るかもしれないという懸念と、日本銀行が政策金利を25bps引き上げることと決定し、さらに引き締めが続く可能性を示唆したことに起因します。その結果、キャリートレードの巻き戻しによって広範な売りが増幅されました。VIX指数が65まで上昇したことに象徴されるように、この動きはかなりのものでしたが、株価指数は月末までに損失の大半を取り戻し、四半期末にはプラス圏に浮上しました。株式は、待望されていた9月FOMCにて、FRBが利下げサイクルを50bpsの大幅引き下げで開始したことを好感し、上昇に転じました。四半期末になると、市場を動かすニュースは東側に集中しました。北京は中国経済の再活性化を目指した数々の施策を発表した一方、日本の次期首相にはタカ派傾向が強まると予想される石破茂氏が選出されました。

当レポート対象期間の最終月となる11月は、米大統領選挙の地政学的・マクロ経済的影響への期待が

市場に波及しました。ドナルド・トランプ氏が圧勝した後の最初の反応は株式にとってポジティブで、多くのベンチマーク株価指数が過去最高値まで上昇しました。しかし、月が明けるとつれて、次期政権の政策とそれが経済に及ぼす影響をめぐる不透明感から、市場は後退しました。月末には、スコット・ベッセント氏が財務長官に指名されたとのニュースが伝わり、米国債市場が上昇しました。このニュースにより、トランプ大統領の政策がより穏健なものになる可能性があるという楽観論が広がりました。

■ ポートフォリオについて

金利と世界経済の先行きを巡る市場心理が揺れ動く中、ファンドは債券市場からの利益創出に苦戦しました。ファンドの債券エクスポージャーは、市場の値動きに応じて、下半期にネットショートからネットロングに切り替わりました。しかし、10月に金融・政治情勢の不透明感が世界市場に波及し、市場参加者が利下げ観測を後退させたため債券が大きく売られると、ファンドのロングポジションに逆行し、大幅な損失に繋がりました。金属では、ファンドの金のロングポジションが小幅な利益を上げた以外は、ベースメタルと貴金属の両方の変動するポジションがマイナスのパフォーマンスとなりました。逆に、ファンドは農業セクター、特にカカオ市場のロングポジションから大きな利益を上げました。カカオ相場は、天候や病気に関連した供給不足が続いたため、価格が上昇しました。ファンドは、第1四半期にこの動きを見事に捉え、その後の数か月で価格が再び正常化したにもかかわらず、期間中利益を維持しました。これは、当プログラムに組み込まれたポジション調整メカニズムによるもので、カカオ市場のボラティリティの上昇にシステマティックに反応し、ポジションを逆に調整しました。残りのセクターでは、ファンドが年初4か月に、通貨では日本円のネットショートポジション、株価指数ではロングポジション、エネルギーでは天然ガスのショートポジションから利益を上げました。しかし、地政学的・政策的な不確実性の中でボラティリティが短期的に急上昇する事象が何度も発生したため、中期的なトレンドフォロー戦略にとっては厳しい環境となり、ファンドはこれらのセクターで損失を計上しました。

■ 分配金について

米ドルクラスおよび円クラスについては、分配実績はありません。豪ドルクラスについては、当期における分配実績はありません。

今後の運用方針

2024年が政治的変化の年であったとすれば、2025年はこうした変化の影響が明らかになる年になるでしょう。インフレ懸念は地政学的懸念に取って代わられつつあります。グローバリゼーションのピークは既に衰え始めていましたが、新政権たちと、貿易戦争の再燃を含む各国のさらなるリショアリングの可能性が、これを加速させるかもしれません。しかし、今世紀最初の四半世紀が過ぎようとしているいま、楽観視できることはまだたくさんあります。世界の貧困は劇的に減少し(それでもまだ存在するものの)、テクノロジーは「google」や「uber」が世界的に辞書に載るほど進歩したうえ、AIが同じように世代を決定づけるようなインパクトを与えることができると期待されています。

アスペクトの幅広い流動的かつシステムティックな投資運用ソリューションが、投資家の皆様に分散投資を提供し続けることを、2000年当初と変わらず確信しております。

お知らせ

管理会社において、受託銀行と協議の上、2024年6月1日を効力発生日として、ファンド終了日を2030年11月28日に変更する旨が決定されました。

ファンドの概要

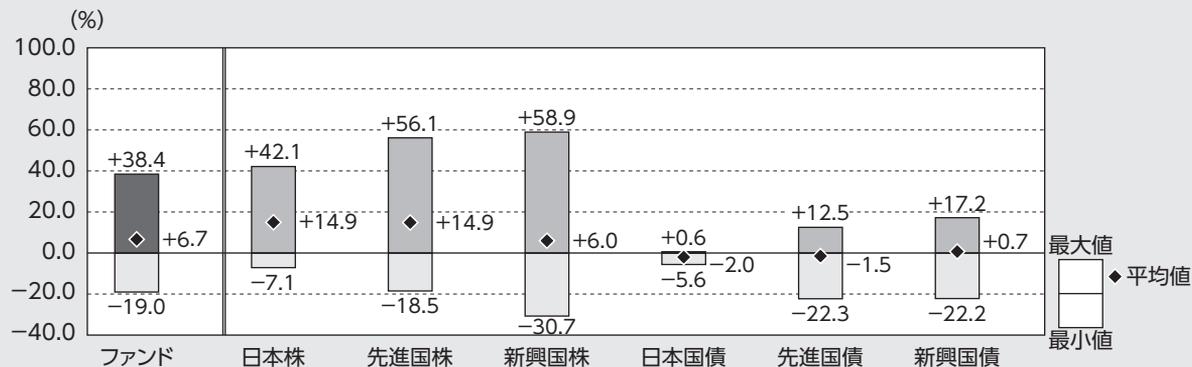
ファンド形態	ケイマン諸島籍／オープン・エンド契約型／外国株式投資信託
信託期間	ファンドは2030年11月28日に終了します。(ただし、それ以前に繰上償還される場合があり、また、受託銀行と協議の上での管理会社の決定により、またはファンド受益者決議により、信託期間を延長する場合があります。)なお、ファンドの設定日は、2012年3月16日です。
運用方針	ファンドの投資目的は、厳密なリスク管理体制内で、従来の株式債券市場の全般的な変動に左右されずに、中期的な信託財産の成長を図ることです。
主要投資対象	国際的な先物契約および先渡契約(商品先物および通貨先渡しを含みます。)、債券および短期金融商品(リバースレポ取引を含みます。)ならびにその他の派生商品。
ファンドの運用方法	<p>管理会社は、ファンド資産の投資および運用に関する業務を、投資顧問契約に基づき、投資顧問会社であるアセットマネジメントOne インターナショナル・リミテッドに委託しています。</p> <p>投資顧問会社は、ファンド資産の投資および運用に関する業務を、副投資顧問契約に基づき、副投資顧問会社であるアспект・キャピタル・リミテッドに委託しています。</p> <p>副投資顧問会社は、システム化され幅広く分散されたグローバルな投資プロセスを採用し、主に派生商品の活用を通じ、多様な金融商品やその他資産(株式、株価指数、債務証券(債券を含みます。)、通貨、金利および商品(エネルギー、金属および農産品を含みます。))を含みますが、これに限定しません。)の市場のトレンドを伴う動きを見極め、有効に活用するべく、多様な投資戦略を展開します。また、投資顧問会社は、ファンドについて米ドルを売却し、取引対象通貨を購入するクラス為替取引に関する業務を、為替管理契約に基づき、為替管理会社であるザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロンに委託しています。副投資顧問会社は、米ドル以外の通貨建の債券および短期金融商品へ投資する場合、投資通貨を売却し、米ドルを購入する為替取引を行う予定です。また、副投資顧問会社は、ファンドのため、投資運用から生じる米ドル以外の通貨建での損益を、米ドルに換金する取引を日常的に実行します。</p>
分配方針	<p>収益分配は、投資顧問会社の裁量により行われます。</p> <p>分配基準日:分配落ち日の前ファンド営業日</p> <p>分配金支払日:分配落ち日から起算して原則として7ファンド営業日目以降</p> <p>豪ドルクラスに関しては、分配金支払日がオーストラリア営業日※に該当しない場合、分配はオーストラリア営業日である翌ファンド営業日に支払われます。</p> <p>日本における販売会社または販売取扱会社は、必要な支払処理を完了次第、投資者に対して分配金を支払います。</p> <p>※[オーストラリア営業日]とは、シドニーの銀行が営業を行う日(土曜日および日曜日を除きます。)または投資顧問会社と協議の上、管理会社が随時に決定することのできるその他の日をいいます。</p>

参考情報

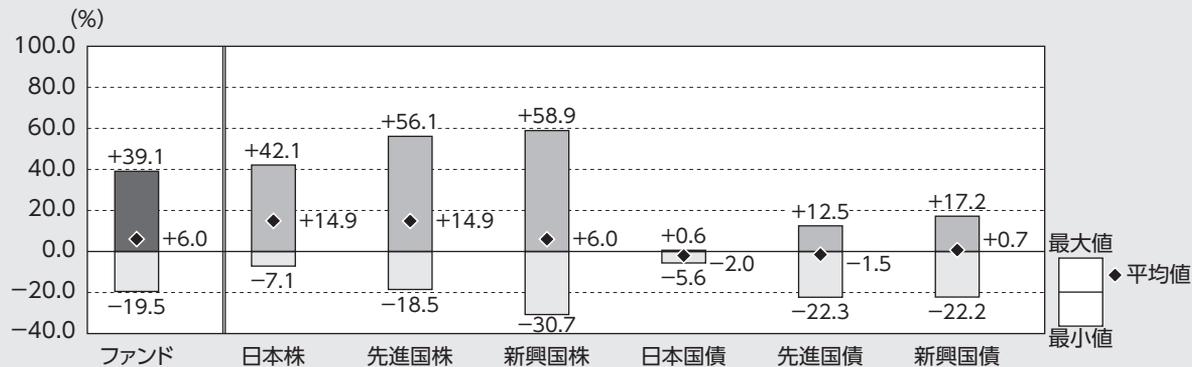
■ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

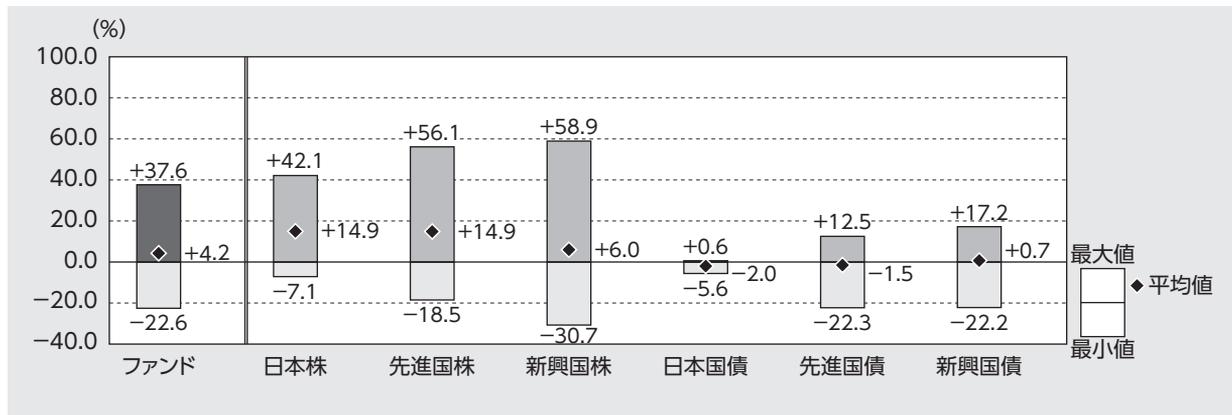
米ドルクラス



豪ドルクラス



円クラス



- すべての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて、2020年4月から2025年3月までの5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示したものです。
- ファンドの各クラスの騰落率は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして計算しています。なお、米ドルクラスおよび円クラスについては、分配実績はありません。また、各クラスの通貨建てで計算しており、円換算されておられません。したがって、米ドルクラスおよび豪ドルクラスについては、円換算した場合、グラフとは異なる騰落率となります。

《各資産クラスの指数》

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCIコクサイ・インデックス(米ドルベース、配当込み、為替ヘッジなし)

新興国株:MSCIエマージング・マーケット・インデックス(米ドルベース、配当込み、為替ヘッジなし)

日本国債:Morningstar日本国債指数(円ベース)

先進国債:Morningstarグローバル国債指数(除く日本、米ドルベース)

新興国債:Morningstar新興国ソブリン債指数(米ドルベース)

東証株価指数(TOPIX)の指数値および東証株価指数(TOPIX)に係る標章または商標は、株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社(以下「JPX」といいます。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数(TOPIX)に関するすべての権利・ノウハウおよび東証株価指数(TOPIX)に係る標章または商標に関するすべての権利はJPXが有します。JPXは、東証株価指数(TOPIX)の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。

MSCIコクサイ・インデックス(米ドルベース、配当込み、為替ヘッジなし)およびMSCIエマージング・マーケット・インデックス(米ドルベース、配当込み、為替ヘッジなし)は、MSCI Inc.が開発した指数でMSCI Inc.の知的財産であり、同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。MSCI Inc.では、かかるデータに基づく投資による損失に一切責任を負いません。

Morningstar日本国債指数(円ベース)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

Morningstarグローバル国債指数(除く日本、米ドルベース)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

Morningstar新興国ソブリン債指数(米ドルベース)は、Morningstar, Inc.が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

DIAMケイマン・トラスト・Aspect マネージド・フューチャーズ・ファンド(以下、「当ファンド」といいます)は、Morningstar, Inc., 又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.の関連会社(これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」といいます)が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または一般的な内外債券市場の騰落率と連動するMorningstarインデックスの能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。当ファンドとの関連においては、クイーンズゲート(以下、「管理会社」といいます)とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarのインデックス(以下「Morningstarインデックス」といいます)の使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが管理会社又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、管理会社又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び/又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、管理会社、当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害(逸失利益を含む)について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

ファンドデータ

*クラス分けされたものがないため、シリーズ・トラスト(ファンド)単位で掲載しています。ファンドは複数のクラスで構成されています。

■ファンドの組入資産の内容(第13期末現在)

◆組入上位資産

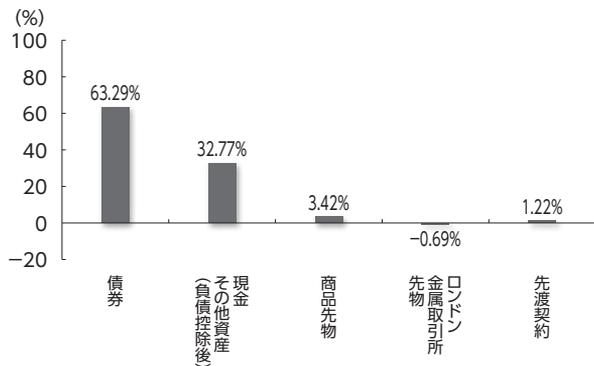
(組入銘柄数: 279銘柄)

		組入比率
1	United States Treasury Bill 01/30/2025	16.91%
2	United States Treasury Bill 02/20/2025	9.09%
3	United States Treasury Bill 02/06/2025	8.03%
4	United States Treasury Bill 01/23/2025	7.65%
5	United States Treasury Bill 12/05/2024	6.51%
6	United States Treasury Bill 02/13/2025	5.79%
7	United States Treasury Bill 01/09/2025	4.82%
8	United States Treasury Bill 01/16/2025	4.48%
9	USD per JPY	1.62%
10	COFFEE 'C' FUTURE Mar25	0.62%

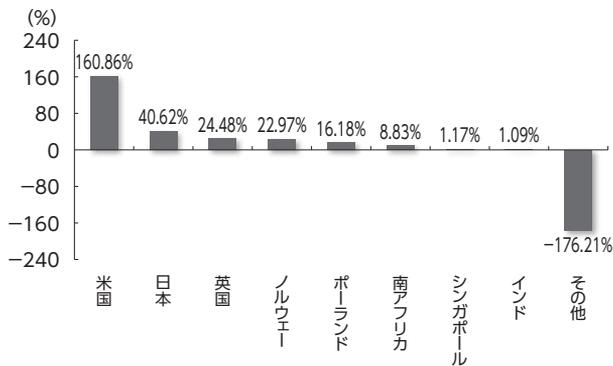
(注1) 組入比率は純資産価額に対する各組入資産の評価額の割合で、絶対値が大きい銘柄を記載しています。

(注2) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

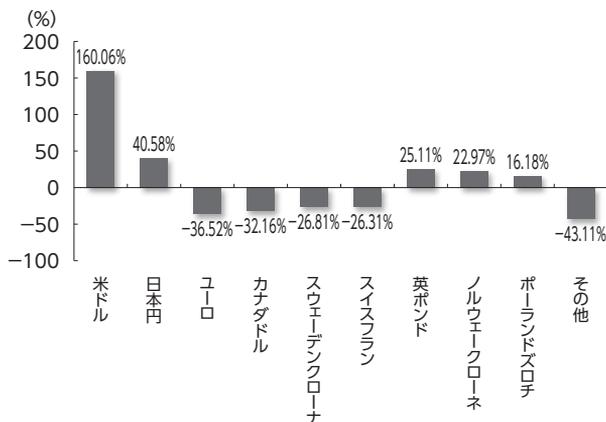
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 組入比率は純資産価額に対する各組入資産の評価額の割合です。国別配分については、構成比率が1%未満の項目を「その他」に分類しています。通貨別配分については、構成比率の絶対値が大きい項目を記載し、10%未満の項目を「その他」に分類しています。

(注2) 上記グラフには、四捨五入した比率を記載しているため、全資産の比率の合計が100.00%にならない場合があります。

■純資産等

米ドルクラス

項目	第13期末
純資産価額	27,233千米ドル
発行済口数	2,257,060口
1口当たり純資産価格	12.04米ドル

第13期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
1,278,221 (1,278,221)	159,266 (159,266)	2,257,060 (2,257,060)

豪ドルクラス

項目	第13期末
純資産価額	859千豪ドル
発行済口数	90,754口
1口当たり純資産価格	9.46豪ドル

第13期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
53,484 (53,484)	63,862 (63,862)	90,754 (90,754)

円クラス

項目	第13期末
純資産価額	4,801,035千円
発行済口数	494,604口
1口当たり純資産価格	9,707円

第13期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
300,594 (300,594)	192,712 (192,712)	494,604 (494,604)

(注) () の数は本邦内における販売・買戻しおよび発行済口数です。